

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 5

年 次 報 告 書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2015年度は、協会の主要事業である「コスモス国際賞」（第23回）の受賞者にスウェーデンのストックホルム・レジリエンス・センター所長のヨハン・ロックストローム博士を選出いたしました。ロックストローム博士は、人類が地球に与える圧力が飽和状態にある中で、人類が生存できる限界点、すなわちプラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化が起こることを回避できるとし、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという研究成果を発表されました。これは、全地球の持続可能な未来への道筋を示唆したものであり自然と人間との共生を目指すコスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました次第です

助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

本書は、これら2015年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

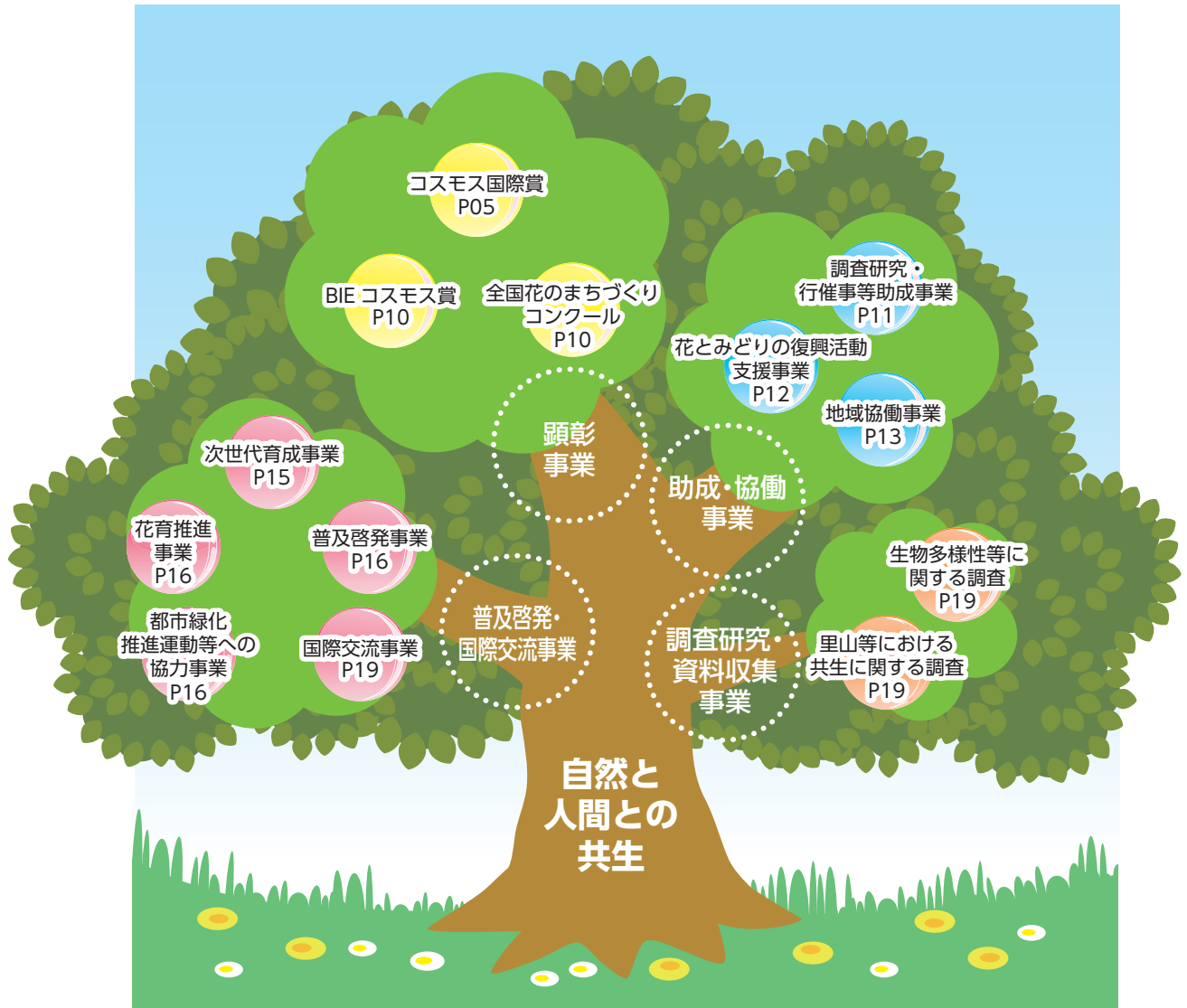
2016年度は、協会設立25年目の節目を迎えます。これを機に、中長期のビジョン策定や広報戦略の検討など、さらにブラッシュアップしてまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

皇太子殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ヨハン・ロックストローム博士は、皇太子殿下とお会いになった。
(平成27年11月11日 東宮御所にて)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であるとする。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2015年(第23回)受賞者を迎え、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

コスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<2015年(第23回)受賞者の選考・決定等>

第1回・第2回選考委員会(平成27年5月25日、5月29日)

第3回選考委員会(平成27年6月26日)

第1回賞委員会(平成27年6月26日)

2015年コスモス賞受賞候補者にヨハン・ロックストローム博士(ストックホルム・レジリエンス・センター所長)が選出されました。

第87回理事会(平成27年7月31日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、7月31日に内外の報道機関に対し、記者発表等を実施しました。



2015年(第23回)コスモス賞受賞者

ヨハン・ロックストローム博士
(ストックホルム・レジリエンス・センター所長)

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

<2016年(第24回)受賞者の選考等>

第2回賞委員会(平成28年1月7日)

2015年 (第23回) コスモス賞 授賞式の開催

国内外の賓客及び招待者約450名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成27年11月5日(木)午後3時~5時

場 所:いずみホール[大阪市中央区]

出席者:約450名

次 第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介

主催者紹介 来賓紹介(マグナス・ローバック スウェーデン国特命全権大使、綱澤幹夫農林水産省生産局花き産業・施設園芸振興室長、佐南谷英龍国土交通省大臣官房審議官、竹内廣行大阪府副知事、村上龍一大阪市副市長)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈

メダル贈呈 来賓祝辞(安倍晋三内閣総理大臣、マグナス・ローバック スウェーデン国特命全権大使) 受賞者講演 祝賀演奏 閉会



顕彰事業

2015年コスモス国際賞受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2015年受賞者ヨハン・ロックストローム博士による講演会を開催しました。

● 東京	
日時	平成27年11月10日(火) 午後4時～6時
場所	東京大学 安田講堂 〔東京都文京区〕
講演	テーマ 「自然と人間との共生:プラネタリーバウンダリー内での繁栄」
	講師 2015年(第23回)コスモス国際賞受賞者 ヨハン・ロックストローム博士(ストックホルム・レジリエンス・センター所長)
次第等	講師等 受賞者紹介 武内和彦 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長、東京大学サステナビリティ学連携研究機構長・教授)
	対談 ヨハン・ロックストローム博士 沖 大幹 (東京大学生産技術研究所教授)
参加者	約520名
共催	東京都教育委員会
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、スウェーデン大使館



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・フランス 卿
Sir. Ghillean France



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良 龍夫
(物故)
Dr. Tatuo Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

コスモス国際賞歴代受賞者

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を取めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所 生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・グエン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルゲレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

コスモス国際賞歴代受賞者

2013年(第21回) 平成25年
ロバート・トリート・ペイン博士
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授
生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年
フィリップ・デスコラ博士
Dr. Philippe Descola



フランス コレージュ・ド・フランス教授
人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこ自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

委員会

コスモス国際賞委員会委員 平成27年4月1日現在(50音順)

- 委員長 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授
副委員長 尾池 和夫 京都造形芸術大学 学長
委員 浅島 誠 独立行政法人 日本学術振興会 理事
委員 磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授
委員 小山 修三 一般財団法人千里文化財団 理事長
委員 佐々木 恵彦 公益財団法人国際緑化推進センター 理事長
委員 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・教授
委員 西澤 直子 石川県立大学生物資源工学研究所 教授
委員 林 良博 独立行政法人 国立科学博物館 館長
顧問 有馬 朗人 学校法人根津育英会武蔵学園 学園長
顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館 館長

コスモス国際賞選考専門委員会委員 平成27年4月1日現在(50音順)

- 委員長 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・教授
副委員長 今福 道夫 京都大学 名誉教授
委員 秋道 智彌 総合地球環境学研究所 名誉教授
委員 池内 了 総合研究大学院大学 名誉教授
委員 モンテ・カセム 立命館大学 名誉教授
委員 ケビン・ショート 東京情報大学環境情報学科 教授
委員 野家 啓一 東北大学教養教育院 総長特命教授
委員 村上 哲明 首都大学東京大学院理工学研究科 教授
委員 鷺谷 いづみ 中央大学理工学部 教授

2015年度事業実績

顕彰事業

BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE(博覧会国際事務局:本部パリ)とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しています。平成27年度は、「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマとして、イタリア ミラノで開催された第4回BIEコスモス賞に参画、支援を行い、平成27年9月30日(水)にミラノ万博会場にて開催された選考委員会に参加し、ONGD CESAL NGOの「Rural School nutrition project」(タヒチ・栄養、衛生に関する教育のため、学校に菜園と鶏の飼育園を整備するプロジェクト)に賞を贈ることを決定、10月30日(金)、ミラノ万博閉会の前日(BIEデー)に、会場においてONGD CESAL NGOに賞金2万ユーロを授与しました。



全国花のまちづくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに参画しました。

第25回 (2015年)全国 花のまちづくり コンクール

主催者：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)
入賞/応募数：23件/1904件
受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門
表彰式：平成27年10月28日(水)、東海大学校友会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



高槻景観園芸クラブ



長崎県B-Kネット

国土交通大臣賞



三島市



南大塚都電沿線協議会

助成・協働事業

調査研究・行催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、技術開発、活動、行催事を支援する助成事業を実施しました。

平成27年度
助成事業

平成27年度は21件の事業に助成しました。

●事業区分	●助成事業名	●助成団体名
調査研究開発	地方博物館の資料を活かした中生代植物化石図鑑制作	中生代植物研究会
	タンポポ調査・西日本2015	タンポポ調査・西日本 実行委員会
	富士山の保護上重要な野生植物の生態と分布調査	富士山自然誌研究会
	絶滅状態にある海浜植物の分布調査と生態研究	特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオー
	水の都・三島・清流のシンボル・ミシマバイカモを救え	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
	京都府亀岡市域ソバメ草分布状況調査	亀岡みらいパース
	気仙沼市本吉地区における海岸植物の市民参加型調査	特定非営利活動法人山の自然学クラブ
	ランドスケープ遺産インベントリー作成事業	公益社団法人日本造園学会
	六甲山地の植物 一般市民向けガイド冊子の発行	公益財団法人神戸市公園緑化協会
	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発	モンゴル森林再生促進研究会
	北海道湖水地方の有用植物調査とワイス・ユース研究	一般社団法人湿原研究所
	大隅諸島の移入シカ管理と生物相保全のための基礎研究	薩南二ホンジカ調査研究ネットワーク
	活動・行催事	重富海水浴場内の松林(防潮林)の維持保全活動
大都市の里山で 舞い踊れ! 未来の森の守り人		特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊
ニオイザクラによる美しいまちづくり		土佐市ドラゴン風景街道推進協議会
自然の恵みを体感する森林教室		特定非営利活動法人吉里吉里国
かめおか里山里道トレイルの活用—植物回廊図鑑—		かめおか里道里山探検倶楽部
かのご里山村・里山イベント充実事業		かのご里山村
わが町—もくもくかわかわ体験プログラム		特定非営利活動法人白神自然学校—ツ森校
子どもガイドたちによる花緑豊かな公園づくり		石橋記念公園子どもガイドの会
岐阜県における外来種等動物対策プロジェクト活動		金華山えごねっと

平成27年度
主な助成事業



かのご里山村・里山イベント充実事業



わが町—もくもくかわかわ体験プログラム



岐阜県における外来種等動物対策プロジェクト活動



子どもガイドたちによる花緑豊かな公園づくり



倒木遮蔽更新仮説を応用した再生促進技術の開発



水の都・三島・清流のシンボル・ミシマバイカモを救え

2015年度事業実績

助成・協働事業

平成28年度 助成対象の決定

平成28年度の助成対象を決定しました。
 〈公募〉公募期間:平成27年8月3日(月)～9月18日(月)
 〈審査〉審査期間:平成27年10月～平成28年1月
 〈決定〉助成事業審査会の審査結果は理事長に答申され、助成対象37件を第88回理事会にて決定しました。

助成事業 成果発表会の開催

助成事業の成果を広く波及させるため、助成事業成果発表会等を開催しました。
 日 時:平成27年9月5日(土)午後1時～7時
 場 所:高新文化ホール(高知新聞放送会館7階)
 来場者:約200名
 内 容:過去の助成団体の中から6団体が事業内容やその成果についての発表を行うと共に、ポール・スミザー氏(ガーデンデザイナー)により、「植物の力で環境をつくる～自然にも、人にも愛される生物多様性ガーデン～」と題する講演会、団体と参加者による交流会を開催しました。
 共 催:公益財団法人高知県牧野記念財団
 協 力:認定NPO法人四国自然史科学研究センター
 後 援:農林水産省、国土交通省、高知県、高知市ほか8団体



委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成27年4月1日現在(50音順)

委員長	尼崎 博 正	京都造形芸術大学 教授	委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
副委員長	丸山 宏	名城大学農学部 教授	委員	長村 智 司	(一社)フラワーサイエティ会長
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環 教授	委員	鷺谷いづみ	中央大学理工学部 教授

花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を支援するための助成事業を実施しました。
 なお、本事業は、阪急電鉄株式会社からの寄附金により実施しています。

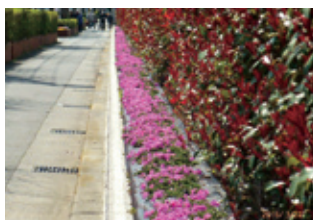
平成27年度 支援内容

公募期間:平成27年4月1日(水)～5月31日(日)
 採択/応募件数:13/22件
 助成総額:500万円

●団体名	●所在地	●内 容
一般社団法人ならはみらい	福島県	国道等への花や緑の植栽による環境美化と放射能不安の払拭
特定非営利活動法人物来まちづくりサポートセンター	福島県	津波被害者等のサロン活動を支えるガーデニング
スマイルいわて	岩手県	スマイルマークのフラワーアート花畑の制作と生育
ふくしま園芸療法研究会	福島県	避難者支援の花植え活動や拠点コミュニティガーデンづくり
ローズマリーの会	岩手県	みどりのカーテンや花壇整備によるローズマリー祭りの継続
特定非営利活動法人スマイルシード	宮城県	神社付近の花壇や公園広場の整備
NPO法人サンガ岩手	岩手県	花畑や家庭菜園による仮設住宅住民の癒しの場づくり
住みよい五箇をつくる会	福島県	地域住民等に安らぎ感じてもらう幹線道路路肩の花植え
NPO法人チームふくしま福島ひまわり里親プロジェクト	福島県	ひまわりを復興のシンボルとするためのプランター設置
台松塚館跡保存会	福島県	地域活性化のための台松塚跡地の整備
社会福祉法人翔友	岩手県	福祉センター通所者へのケアの一環としての外壁緑化
一般社団法人ほほえみみやぎネットワーク	宮城県	周辺住民のための旧保育所跡地の花と緑による整備
芝桜de花のまちづくりin浦安	千葉県	液状化被害地の芝桜などによる花とみどりの復興



サンガ岩手



芝桜de花のまちづくりin浦安



住みよい五箇を作る会

花とみどりの
復興活動支援事業
審査員
平成27年6月1日現在
(50音順)

	●氏名	●役職名
委員	久山 敦	一般財団法人大阪スポーツみどり財団 咲くやこの花館 館長
委員	長村 智司	一般社団法人 フラワソサイエティ 会長
委員	吉田 昌弘	株式会社 空間創研取締役 会長

地域協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発のため、平成24年度から地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業を開始し、平成27年度は、これらの事業のうち、特に協会の理念継承に資する事業や特に効果の高かった事業について、対象を全国に広げて実施しました。

歴史の道みどりの拠点づくり事業

歴史のある旧街道などの道沿いに、地元住民団体や地方自治体と協働し、緑あふれる空間を創造することにより、魅力的な憩いの場を提供する本事業を実施しました。

●実施団体	●所在地	●事業概要
山中溪自治会	大阪府阪南市	熊野古道沿いのわんぱく王国駐車場に植樹を行い、併せて日本家屋風の塀を整備
特定非営利活動法人 大阪水上協会	大阪市中央区	中之島周辺の拠点であり熊野街道の起点である八軒家浜に高木や道標等を整備



山中溪自治会



大阪水上安全協会

助成・協働
事業

子どもたちと育てる
花とみどりによる
コミュニティづくり
事業

小中学校や地元団体と協働し、子どもたちが育てた花の苗などを通して、人々の結びつきや地域の結束力を固めることで、地域コミュニティの向上を図るとともに都市緑化を推進することを目的とし、実施しました。

● 実施団体	● 所在地
木津川市立城山台小学校	京都府木津川市
石津小 Happyスマイルコミュニティプラン	大阪府寝屋川市
岸和田市立城北小学校 花とみどりの実行委員会	大阪府岸和田市
下鳥羽 花いっぱい 笑顔いっぱい運動	京都府京都市
子どもたちから地域とママに花を贈る 「成徳 母苗(花苗)コミュニティづくり」事業	京都府京都市
花とみどりを育てる委員会	大阪市阿倍野区
長原ガーデン花いっぱいプロジェクト	大阪市平野区
梅香小学校花いっぱい実行委員会 梅香小学校はぐくみネット	大阪市此花区
釧路市白樺台花いっぱい運動 釧路市白樺台花いっぱい運動の会	北海道釧路市
登美ヶ丘中学校区地域教育協議会	奈良県奈良市



石津小Happyスマイルコミュニティプラン



長原ガーデン花いっぱいプロジェクト



登美ヶ丘中学校区地域教育協議会

第3回みどりの
交流広場

みどりの環境創出や保護の活動をしている市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進させるみどりの交流広場を開催しました。

日 時：平成28年2月11日(木・祝)午後1時～5時30分

場 所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

参加団体：19団体

聴講者：約120名

後 援：大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、
京都府、奈良県、奈良市



普及啓発・国際交流事業

次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「小・中学校における生態園づくり」を実施しました。また、幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫エクスト大作戦」を今年度初めて実施し、自然と触れあう楽しさを親子で体験できる機会を提供しました。

コスモスセミナー
自然観察教室
～生まれ生きもの
好きな子供たち
2015～

開催日：平成27年8月8日(土)～8月10日(月)
場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)
講 師：久留飛克明(箕面公園昆虫館館長)
澤田 義弘(箕面公園昆虫館スタッフ)
参加者：近畿圏の小学4年～6年生、中学1年生 22名
旅行主催・実施：近畿日本ツーリスト株式会社大阪法人旅行支店
後 援：大阪府、兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県立大学、
猪名川町教育委員会、JT生命誌研究館、日本環境教育学会、
日本昆虫学会、(一社)日本生態学会、日本動物行動学会、日本昆虫協会



小学校講師派遣

● 実施日	● 実施校および参加者	● テーマ	● 講師
平成27年6月16日	大阪市立東小橋小学校 3年 69人	昆虫について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成27年6月19日	豊中市立豊南小学校 3年 35人	自然・生命の不思議について	佐藤洋一郎(京都産業大学教授)
平成27年6月22日	枚方市立西長尾小学校 4年 97人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成27年6月23日	柏原市立堅下北小学校 3年 41人	昆虫について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成27年7月1日	高槻市立榎田小学校 3年/4年 17人	自然・生命の不思議について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成27年7月10日	大阪市立加島小学校 3年 92人	昆虫について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成26年7月13日	大阪市立東三国小学校 3年 43人	昆虫について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成27年9月24日	堺市立浜寺小学校 3年 69人	昆虫について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成27年11月11日	大阪市立焼野小学校 4年 53人	環境・生命・動物について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成27年12月7日	大阪市立瓜破北小学校 4年 58人	生物について	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年1月21日	泉大津市立穴師小学校 4年 80人	環境、森林について	中村 彰宏(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)
平成28年2月10日	大阪市立港晴小学校 4年 22人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)



小・中学校における生態園づくり

● 学校名(所在地)	● 内 容
茨木市立清溪小学校(大阪府茨木市)	児童の環境学習につなげる生態園づくり
西宮市立西宮浜小学校(兵庫県西宮市)	田んぼづくり体験を通しての生態系調査
智辯学園中学校(奈良県五條市)	地域の自然に対する自発的な働きかけと考察の構築
八尾市立刑部小学校(大阪府八尾市)	ニッポンバラタナゴの池をつくらう!



2015年度事業実績

普及啓発・ 国際交流事業

**鶴見緑地
昆虫クエスト**

開催日：平成27年9月26日(土)10時～12時
場所：花博記念公園鶴見緑地
陳列館ホールおよび自然観察体験園周辺
講師：八木 剛（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）
参加者：約120名
（鶴見区内の幼稚園・保育園に通う5歳児とその家族）
協力：鶴見区子ども園ネットワーク
共催：兵庫県立人と自然の博物館



花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4～6月)」および「都市緑化月間(10月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力するとともに、協会事業の紹介パネル等を展示しました。



普及啓発事業

花の万博を開催した地元において、基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

大阪都市緑化 フェア2015

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画し、支援しました。また、会場内の出展ブースに協会の事業紹介パネルの展示を行いました。
開催日：平成27年10月25日(日)
場所：大阪梅田北ヤード
来場者：約4,000名
主催：当協会、大阪府、(一財)日本造園修景協会



はならんまん 2015

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に支援しました。
開催日：平成27年10月17日(土)・18日(日)
場所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)
来場者：約55,000名
主催：当協会、大阪市



2015年度事業実績

みどりの まちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第5回みどりのまちづくり賞に参画し、会長賞を授与しました。
主 催:当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



公園利用促進 広報事業 (情報誌オアフ の発行)

大阪府下の公園、緑地の利用の促進等のため、公園情報や当協会事業情報を掲載した情報誌「オアフ」第7号、第8号(各3万5千部、計7万部)を大阪府、大阪市と協働して作成、配布するとともに同誌を常時閲覧できるよう「電子版」を作成し、協会ホームページに掲載しました。



その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のため、各種団体等が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧

● 催 事 名(開催時期)	● 開 催 場 所	● 主 催	● 名義等
第17回「国際バラとガーデニングショウ」 (H27.5.12~5.17)	西武プリンスドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショウ組織委員会	後援
大阪ばら祭2015 (H27.5.15~5.17)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	関西ばら会 咲くやこの花館 運営グループ	後援 会長賞
第12回2015周防町通り「はなまつり」 (H27.5.1~5.31)	周防町通り(堺筋~御堂筋間)と 大阪市立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村 周防町通り商店会	後援
いけばなインターナショナル大阪支部 第24回フェスティバル(H27.4.26)	大阪国際交流センター (大阪市天王寺区)	いけばなインターナショナル 大阪支部	後援
第2回公益社団法人日本フラワー デザイナー協会花検定(H27.11.23)	東京、大阪、 名古屋、福岡	公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会	後援
平成27年度大阪府立花の文化園 幼児・小中学生花の絵画展(H28.1.5~1.31)	大阪府立花の文化園(フルルガーデン) イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、花の文化園協働事業体 (一般財団法人大阪府みどり公社)	後援 会長賞
山の日制定記念 水都おおさか森林 (もり)の市2015(H27.10.4)	近畿中国森林管理局 毛馬桜ノ宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり 木づかい実行委員会	後援
平成27年度「都市緑化月間」 (27.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
フラワーアートミュージアム2015 (H27.10.2~10.19)	大阪ステーションシティ(JR大阪駅) 時空の広場	大阪ターミナルビル株式会社	後援
第70回記念日本おもと名品展 (H27.11.28~11.29)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	公益社団法人日本おもと協会	後援 会長賞
ぎふフラワーフェスティバル2016 (H28.3.5~3.6)	岐阜メモリアルセンター (岐阜市長良福光大野)	清流の国ぎふ花き戦略会議	後援
2016日本フラワー&ガーデンショウ (H28.4.22~4.24)	パシフィコ横浜展示ホールB (神奈川県横浜市)	公益社団法人 日本家庭園芸普及協会	協賛
小品盆栽フェア第24回春雅展 (H28.3.25~3.27)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人 全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
第18回「国際バラとガーデニングショウ」 (H28.5.13~5.18)	西武プリンスドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショウ 組織委員会	後援
いけばなインターナショナル大阪支部 第25回フェスティバル(H28.5.22)	大阪国際交流センター (大阪市天王寺区)	いけばなインターナショナル 大阪支部	後援

2015年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

ホームページ等の運営・管理

各事業の情報を適宜更新し、アニュアルレポート等のバックナンバーも新たに掲載しました。また、facebookでも情報発信に努めました。



コスモス国際賞の広報

最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し授賞式等で配付しました。
また、2015年(第23回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判84頁)を作成(1,500部)し、国内外の関係者に配付しました。



情報の提供

北京国際園芸博覧会事務局等、各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報、写真の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	6件
企業・個人	5件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等しました。



普及啓発・ 国際交流事業

国際交流事業

日本の高校生を台湾に派遣し、専門家の指導のもと現地の高校生と合同で生きものの調査、体験を行う事業を来年度に実施するべく計画し、今年度は現地フィールドの調査・確認等を行いました。



また、2016年4月から10月にトルコ共和国アンタルヤ県で開催される「2016年アンタルヤ国際園芸博覧会」での日本政府出展のための実行委員会に参画し、事業計画・予算計画等の検討を行い、屋外出展に協力しました。



調査研究・ 資料収集 事業

生物多様性等に関する調査

これまで取り組んできた、文化を育む日本の植物の保全が果たす役割や課題をまとめた成果を普及させる手法について、他団体などとの協働、広報用媒体の作成などの検討を進めました。

里山等における共生に関する調査

平成25年度の東日本大震災被災地を対象とした地域特有の里地、里山、里海に関わる文化に関する文献調査、事例調査の成果、平成26年度の大阪湾周辺地域（兵庫県南あわじ市、和歌山県田辺市）における里、山、海の連携に関する資料収集・調査の成果などを踏まえ、東日本大震災被災地、大阪湾周辺地域の2地域の比較を行い、今後の防災、被災地のコミュニティの復興やまちづくりにも役立てることができるよう、検討を進めました。

兵庫県あわじ市



和歌山県田辺市



組織運営

理事会 平成27年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第85回理事会	平成27年 6月5日(金)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成26年度事業報告及び収支決算について 平成27年度収支予算の補正について 特定資産について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について 評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について
第86回理事会 (決議の省略)	平成27年 6月24日(水)	——	会長、理事長、専務理事の選定について
第87回理事会	平成27年 7月31日(金)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	2015年(第23回)コスモス国際賞受賞者の決定について 特定資産の取り崩しについて 評議員会に提出する評議員候補者(案)について 評議員会の招集について
第88回理事会	平成28年 3月18日(金)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成28年度資産運用方針書について 平成28年度事業計画及び収支予算について 特定資産について 平成28年度助成団体の決定について コスモス国際賞委員会委員の選任について 助成事業審査委員会委員の選任について

評議員会 平成27年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第45回評議員会	平成27年 6月24日(水)	関西文化サロン (大阪市北区)	平成26年度事業報告及び収支決算書類の承認について 理事の選任について 評議員の選任について
第46回評議員会 (決議の省略)	平成27年 9月2日(水)	——	特定資産の取り崩しについて 評議員の選任について

平成27年度決算

貸借対照表 平成28年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	170,278,721	未払金	32,743,767
未収収益	71,060,199	預り金	814,460
流動資産合計	241,338,920	賞与引当金	2,541,886
2. 固定資産		流動負債合計	36,100,113
(1)基本財産		2. 固定負債	
基本財産普通預金	860,000,000	退職給付引当金	50,719,600
基本財産定期預金	344,700	固定負債合計	50,719,600
基本財産投資有価証券	29,655,300	負債合計	86,819,713
基本財産合計	890,000,000	III 正味財産の部	
(2)特定資産		1. 指定正味財産	
記念基金	9,777,611,888	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	50,719,600	基本財産運用益	90,000,000
特定資産合計	9,828,331,488	特定資産運用益	731,610,000
(3)その他固定資産		特定資産評価差額金等	△153,998,112
投資有価証券	13,208,268	指定正味財産合計	10,667,611,888
什器備品	8	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
その他固定資産合計	13,208,276	(うち特定資産への充当額)	(9,777,611,888)
固定資産合計	10,731,539,764	2. 一般正味財産	218,447,083
資産合計	10,972,878,684	(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(0)
		正味財産合計	10,886,058,971
		負債及び正味財産合計	10,972,878,684

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	14,098,932
基本財産受取利息	14,098,932
特定資産運用益	251,980,812
記念基金受取利息	226,169,812
記念基金売却益	21,043,000
記念基金償還益	4,768,000
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
雑収益	852,674
受取利息	5
雑収益	852,669
経常収益計	270,932,418
(2) 経常費用	
事業費	205,753,681
役員報酬	8,337,000
給与手当	40,653,672
法定福利費	7,006,085
退職給付費用	1,644,683
賃金	1,895,425
職員厚生費	696,657
会議費	1,645,106
旅費交通費	6,513,678
通信運搬費	2,508,119
広告費	932,191
消耗什器備品費	1,816,546
消耗品費	1,748,249
印刷製本費	2,920,776
光熱水料費	2,767,486
役務費	38,071
委託費	17,324,109
賃借料	4,982,139
使用料	2,372,029
保険料	202,972
諸謝金	5,576,757
租税公課	14,434
支払負担金・会費	35,481,387
支払助成金	15,278,760
支払手数料	582,972
顕彰賞金	42,693,400
雑費	120,978
管理費	70,428,445
役員報酬	3,573,000
給与手当	34,625,048
法定福利費	6,778,089
退職給付費用	1,428,917
賃金	812,325
職員厚生費	605,262
会議費	705,045
旅費交通費	2,791,577
通信運搬費	1,074,908
広告費	399,511

科目	当年度
消耗什器備品費	778,520
消耗品費	749,250
印刷製本費	1,251,762
光熱水料費	1,186,065
役務費	16,315
委託費	7,424,618
賃借料	2,135,203
使用料	1,016,584
保険料	86,988
諸謝金	2,390,039
租税公課	6,186
支払負担金・会費	291,540
支払手数料	249,845
雑費	51,848
経常費用計	276,182,126
当期経常増減額	△5,249,708
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△5,249,708
一般正味財産期首残高	223,696,791
一般正味財産期末残高	218,447,083
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
基本財産運用益	14,098,932
基本財産受取利息	14,098,932
特定資産運用益	660,032,857
記念基金受取利息	229,819,857
記念基金投資有価証券売却益	21,043,000
記念基金投資有価証券償還益	409,170,000
特定資産評価益	0
記念基金投資有価証券評価益	0
特定資産評価損	△354,252,350
記念基金投資有価証券評価損	△354,252,350
一般正味財産への振替	△273,729,789
一般正味財産への振替	△273,729,789
当期指定正味財産増減額	50,149,650
指定正味財産期首残高	10,617,462,238
指定正味財産期末残高	10,667,611,888
III 正味財産期末残高	10,886,058,971

財団の概要(平成28年4月1日現在)

名 称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 平成28年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	竹内廣行	大阪府副知事
評議員	田中清剛	大阪市副市長
評議員	土井元章	(大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
評議員	正籬聡	(特)日本放送協会大阪放送局長
評議員	正木啓子	大阪ガス(株)近畿圏部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念財団理事長

役員 平成28年4月1日現在(50音順)

会長	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役社長
専務理事	田中充	常勤
理事	今西英雄	(大)大阪府立大学名誉教授
理事	輿水肇	(公財)都市緑化機構理事長
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(学)京都学園大学バイオ環境学部教授
理事	和田新也	国際園芸家協会(AIPH)日本代表
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

顧問 平成28年4月1日現在(50音順)

顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	(公財)日本住宅総合センター理事長

参与 平成28年4月1日現在(50音順)

参与	泉真也	環境プロデューサー
参与	小林庄一郎	関西電力(株)前顧問
参与	近藤公夫	(大)奈良女子大学名誉教授
参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館館長
参与	長倉三郎	日本学士院元院長
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	松本洋	(一財)日本国際協カシステム顧問
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、事業総合調整、評議員会・理事会関係、予算・決算、広報、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業

1. 2016年(第24回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2016年(第24回)コスモス国際賞事業を実施します。

平成28年度は、2016年の受賞者選考及び決定に加え、第25回目の節目となる2017年の選考準備を行います。2016年の受賞者は7月下旬を目途に決定し、11月8日に授賞式を開催します。

2. BIEコスモス賞

国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞について、2017年のカザフスタンのアスタナ万博での実施に向けて協議・調整を行います。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」については、推進協議会に参画し実施します。

助成・協働事業

1. 調査研究、行催事等助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を実施します。

2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の被災地の復旧・復興を花とみどりで支援するため、復興活動に対して助成を行います。

3. 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働して、「子どもたちと育てる花とみどりによるコミュニティづくり事業」や「みどりの交流広場」など理念継承に資する事業を引き続き実施するほか、「歴史の道みどりの拠点づくり事業」の検証を行います。

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」及び、山野で生き物に触れあう「自然観察教室」を実施するとともに、毎日新聞社との共催による「小・中学校生態園づくり」を実施します。

また、幼稚園児に昆虫など生き物を通して自然に親しむ機会を提供するため「昆虫クエスト大作戦」を新規事業として実施します。

2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップの開催等を支援します。

3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する事業や活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」を主催者の一員として参画し、実施します。また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を、高校生や一般を対象に実施します。

5. 国際交流事業

トルコのアンタルヤにて開催される国際園芸博覧会への日本政府出展に引き続き協力するほか、高校生を対象に海外の自然に触れさせる機会を作るために、台湾にて海外青少年交流事業に着手します。

調査研究・資料収集事業

1. 生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行うとともに専門家の意見を踏まえ、フォーラムや小・中学生を対象とした小冊子を作成し、成果を広く発信していきます。

2. 里山等における共生に関する調査

平成25年度に東北地方、平成26・27年度に関西を対象として実施した「地域特有の花と緑に関わる伝統的文化に関する文献調査や事例調査」の結果を踏まえ、双方の比較を行い、結果を被災地のコミュニティの復興やまちづくりにも役立てられるよう、東北地方にて情報発信等を行います。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「フリチラリア・メレアグリス」

2015年(第23回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサージュ、ブートニアで、ロックストローム博士の出身地であるスウェーデンに自生するフリチラリア・メレアグリスをモチーフにデザインしたものです。